

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	鉄骨造建築の防水構法小委員会		主 査 名：輿石直幸 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工本委員会 防水工事運営委員会		委員長名：田中 享二 主 査 名：小野 正
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2007 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・鉄骨造建築の陸屋根および緩勾配屋根等の部位に適用するメンブレン防水関連技術の実態調査・分析(2005 年度) ・同詳細分析と結果の取りまとめおよび報告書の作成(2006 年度)		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有(応募者無)		
	板井克真(多田建設) 市川裕一(東急建設) 金崎俊造(鹿島建設) 久下高豊(清水建設) 輿石直幸(早稲田大学) 西田和生(国土交通省国土技術政策総合研究所) 山宮輝夫(大成建設)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2006 年度予算	24,500 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回(年度内計画を含む)うち 4 回は少人数開催(担当委員のみ)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	特になし(報告書を作成後、機会があれば公表)
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 陸屋根パラペット廻り構法の機能・性能分析 2. 陸屋根パラペット廻りの構法別機能・性能チェックリストの作成 3. 報告書の取り纏め
委員会活動の問題点・課題	1. 実施工図面の入手が困難なため、標準的な構法を対象に検討した。 2. 各種防水工法の適否は防水下地の安定性によるところ大であるが、さらに、間柱・胴縁など鉄骨二次部材の取付け・剛性などの影響も受ける。 3. カバーすべき構法の種類が多く、作業が膨大。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。